



青少年センターだより

令和5(2023)年10月号



『リアルな体験』足りていますか？

今、子ども達の「リアルな体験」が不足しています。急激なデジタル化により、いろいろなことがスマートフォンを通してできるようになった昨今ですが、スマートフォンを始めとしたデジタル機器が与えてくれるのは大半が「間接体験」です。この状況はコロナ禍によって拍車がかかり、世の中全体が「リアルな体験」から離れていってしまった3年間だったように思います。



本市においても、大勢の人を集めたり、直接人と触れ合ったりする機会について自粛の状態が続いていました。3年間もの間、たくさんの成長の可能性を子ども達は奪われてしまっています。

☆文部科学省『子供の体験活動推進宣言』に賛同表明

文部科学省では、子ども達への豊かな体験活動の提供に官民一体となって取り組むため、令和4年6月に「子供の体験活動推進宣言」を公表しています。

皆様も、新型コロナウイルスの影響により、様々な体験活動の機会の喪失、体験活動を提供する大人のモチベーション、ノウハウの喪失について実感しているのではないのでしょうか。

那須塩原市には、子ども達の自然体験のための環境が豊富にあります。その環境を活用して本市の子ども達に「リアルな体験」を全力で届けることを決意するため、市教育委員会では、令和5年9月に『子供の体験活動推進宣言』への賛同を表明しました。

今後、様々な「リアルな体験」を青少年センターからも提供していく予定です。

☆なぜ体験活動が必要なの？

デジタル技術が発達する以前、子どもの頃に良質な体験を積むと良いというのは常識でした。しかし、デジタル化が進み、間接体験であれば、手間をかけずにいろいろなものを見聞きできるというメリットばかりがクローズアップされ、いつのまにか子どもの頃の体験の意義について、若者の意識からは薄れていってしまいました。そこで、今一度体験活動の必要性について考える機会を設けました。 ⇒ 裏面を御覧下さい

体験活動の必要性和 現代の若者

～どんな体験が必要なのか～

小さい頃にたくさんの体験をした子はどんな大人になるのか？
講師が実例をもとに、語りつくします！

実際に地域づくりに携わった現役宇大生のゲストトークも
乞うご期待！



講師：廣瀬 隆人 氏
(一社)とちぎ市民協働研究会 代表理事

11.12
Sun
10:00～

日時 令和5年11月12日(日) 10時開会(受付9時30分～)
※なすしおばら まなび博覧会と同日開催
会場 宇都宮共和大学那須キャンパス 2階 大講義室
対象 どなたでも(事前の申込みは必要ありません)
参加費 無料(定員150名)

主催 那須塩原市教育委員会
那須塩原市青少年育成市民会議 (少年指導員会)

同時開催「なすしおばら まなび博覧会」

「こどもからおとなまで 学びの祭典！」

11/11(土)～12(日)にかけて、会場では「なすしおばら まなび博覧会」(なしお博)が開催されます。
小中学生や市文化協会などの作品展示、バラエティに富んだ体験ブース、飲食店など、誰でも楽しめるイベントです。こちらもぜひお楽しみください。(詳しくは、市HPをご覧ください)

◆青少年センターからのお知らせ (青少年相談について)

当センターでは、青少年の健全育成のため少年指導相談員による相談を電話や面接により受け付けています。一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

◎相談日 : 月・火・木・金 (10:00～12:00 祝日は除く)



那須塩原市青少年センター 那須塩原市あたご町2-3
Tel 0287-37-5925 Fax 0287-37-5479
E-mail shougaigakushu@city.nasushiobara.tochigi.jp